



## バーチャルな図書館

図書館長(人文学部教授)

大城 亘武

すべての知識をすべての人に、と主唱したのは17世紀の人コメニウスである。パンソフィア(汎知学)である。知識は個に宿る。知はそれ自体としては存在し得ない。知は表現され口承され、また記録されて共有の知財となる。粘土に焼かれ、木簡、竹簡に記され、布に、パピルスに、羊皮紙に、そして紙に書かれ、あるいは印刷されて、知識は蓄積され、伝播されてきた。通常、知は本と言うメディアに載って存在する。本の形をとった知を収蔵する施設、これが図書館、文書館である。

図書館はすべての知識を収蔵しようと欲望する。しかし、それは決して満たされることはない。グラッドラッドによると、キリスト紀元時の知識量を1とすると、それが最初に倍増するのに要した時間はほぼ1750年であるが、知識爆発によりその倍増間隔がどんどん狭まり地球は膨大な知識を抱えている。これら知識を書籍の形で購入し、整理し、保管し、利用に供することは財政的、図書館の収蔵能力からして不可能だからである。

書籍を代表とする資料の収蔵を中心とする図書館をアナログ図書館(AL)と呼ぼう。一方デジタル化された資料の収蔵を中心とする図書館をデジタル図書館(DL)と呼ぼう。DLの試みは2004年頃に始まっている。グーグル・図書館である。ハーバード大学やニューヨーク市立図書館が協力するという。日本でも慶応大学図書館が参加するらしい。巨大なデジタル書庫の出現である。将来的には全世界のすべての知識が収蔵されることになるだろう。物理的スペースが大幅に削減され、必要に応じて利用できるようになるだろう。そうなることを夢想する。バーチャル・ライブラリー(仮想図書館)である。

映画『タイムマシン』(サイモン・ウエルズ、ゴア・ヴァービンスキー、ワーナー・ブラザース制作、2002)に2030年5月24日のニューヨーク市立図書館が紹介される。タイムマシンを発明した主人公がなぜ過去を改変する事が出来ないかを求めて図書館に出向いたのだった。無人のフロントには小さな書棚が1個あるだけ。ボックス・システムだとか。用件を伺う係員が出現する。図書館における知へのナビゲーターは、参考司書である。未来の司書は人間ではなくバーチャルなのであった。バーチャル司書はいろいろ説明する。この図書館システムは全世界のデータベースとリンクしているという。これによって参考司書業務は可能になっている。この場合、利用者は図書館まで出向かな

ければならない。いつでも、どこでも、誰でも、というわけにはいかないようだ。

バーチャル図書館が普及すると、知識へのアクセスは俄然便利になる。しかし、問題点がないわけではない。管理運営をめぐる利権問題、著作権問題、知識の一極集中、その統制の問題、すなわち知る権利の保障、さらにはデジタル・デバイドの問題が絡んでくる。デジタル化によって、すべての知識を集積する事業は進行中である。すべての人が自律的かつ自立的にそれら知財を活用するリタラシー獲得が喫緊の課題である。



## 「貴重本」との邂逅

沖縄キリスト教学院大学  
沖縄キリスト教短期大学  
学長 神山 繁實

キリスト教図書について私事を含めてささやかな珍しい経験を記してみたいと思う。私の専攻は宗教改革とそれに関連する歴史的神学的分野である。私の大学時代は、1950年代の食糧難と食べるためのアルバイトに精を出さなければならない時代であった。現在のようにテレビもなかったし、せいぜいラジオで音楽と落語を楽しみ、1年に一回か二回、コンサートに行ければいい方であった。そこで当然、本との出会いや古本屋にも通う生活が日常化していた。そのような中でどうしても手に入りたい本が何冊かあったが、到底手の届く金額ではなかった。1960年の夏であったか、大学のBook Storeで欲しい本のシリーズ5巻ものうち4巻が棚に並べてあった。タイトルは次のようなものであった。

JOHANNIS CALVINI OPERA SELECTA (カルヴァン選集)のラテン語版で、第1巻が欠如していた。タイトルは長ったらしいので、省略するがPETERUS BARTH編集で、MDCCCXXVI年の編集出版である。このローマ字はラテン数字で1926出版を意味している。実際、カルヴァンが1533年から1541年にわたって執筆したものである。話がこれで終わるなら何の変哲もないが、後日談がある。1980年8月、サンフランシスコ神学大学のBook Storeで欠如していた第1巻のみが陳列されていたのである。かつて東京で第2巻から第5巻まであって、第1巻が欠如していたが、その第1巻がアメリカで恐らく20年もの間、仲間がいなくなった後も、忍耐強く買い手を待っていたのであろう。これでやっと1セット揃ったわけである。セットものがなぜ日本とアメリカの二手に分かれて、20年後に再会したのか、謎めいている。おそらく発送側のミスであろう。

もう一冊の貴重本は、やはりJohn CalvinのINSTITVTIO CHRISTIANAE RELIGIONIS(「キリスト教綱要」)の最終版(1541)である。私がミシガンのウェスタン神学大学で学んでいたとき、学長のヘッセリンク教授からこの古書を買りたいという人物がいるが、もし私が買うなら第1のバイヤーとして紹介してもよい、ということであった。会うことにした。私の推測では神学者ではなく牧師であったと思う、父親から相続したものであろう。普通は3冊から4冊に分かれているが、1冊になっていて、携帯に便利であ

る。相当高価なものであったが、沖縄に帰ってきてから本の背表紙がかなり傷んでいたため、日本でも一流の本屋に修復を依頼した。しかし、ヨーロッパの古書の修理法を無視して(無知なのか)、現代風に綺麗に修理してしまった。これは修復ではなく、修理である。ヨーロッパでは損害賠償の対象になる。こちらとしては、当然古書の修復をしてくれるものと考えていた。しかし、本屋は、ただ綺麗にすれば仕事は済むと思ったようである。これで古書の価値は大暴落してしまったと言わざるを得ない。ところで、本の表紙を開いたところに、INSTITVTIO CHEISTIANAE RELIGIONIS, Iohanne Calvino, Avthore, GENEVAE, Apud Iohanennem le Preux, MDCVI (1606)、とある。この本は、1606年にジュネーヴで出版されたものである。この時代のスペルの問題であるが、UとVの区別はそれほど厳密ではないか、無視されていたようである。

ところで、この本の所有者は、1606年以来、私で4人目になるが、厳密には4代目であろう。最後の所有者の署名は、James Greig Ballingry, 1824なので、それから150年後に私の手に渡ったのであるから、その間、何人かの手に渡り、当時、聖書と並ぶ家宝として扱われていたのであろう。

何年か前に、CALVINI OPERA 20巻が本学図書館に収納されたが、これを所蔵している大学は日本ではそう多くはない。ましてこれを包含している宗教改革全集50数巻を所蔵している大学は、私が知る限り、日本では天理大学だけではなかったかと思う。その他、ヨーロッパの古書商人とのやり取り(コミュニケーション)の興味深い話もあるが、紙面の都合上、割愛せざるを得ない。

本学の一大特徴は、県内唯一のキリスト教大学であるという事実にある。地域貢献の最大の課題は、大学が地域においてキリスト教の知恵と知識のシンクタンクとしての働きであろう。これについて最も必要な人材は、聖書学関連言語の専門家やキリスト教関連の歴史学者である。日本の多くのキリスト教系大学は、これらの人材は金食い虫として経営の見地から殆んど追放された状態である。問題は、教授会で神学関係の価値について判断を下しているところであろう。キリスト教の周辺的なことや応用的なことには関心をもたれるが、基礎的・本質的な分野への関心と評価があまりにも低すぎる。これではキリスト教が築いてきた知的遺産を損なう自損行為になる。

本学は、クリスチャン・ワーカーの育成を目指して創立されたが、同時に本学の大きな使命は、キリスト教の知の宝庫としての役割を果たすため、今後のこの方面への関心の向上と充実を図ることを期待したい。



## 私の研究

総合教育系准教授

総合教育系主任

青野 和彦

「何故、カトリック思想の研究をするの?」。私はこれまで度々このような質問を受けてきた。質問者の頭の中には、「プロテスタントの教師なのに、何故?」という疑問がどうもあるらしい。ある時には、知り合いの牧師から「是非プロテスタント思想を専攻して、プロテスタント神学の発展に寄与して欲しい」とストレートに要求されたこともあった。プロテスタント教会を思う心情は理解できるが、このような質問はキリスト教思想史を専攻する者にとってはやや酷に聞こえる。この分野はキリスト教の約二千年の歴史を研究範囲とする。プロテスタントの歴史は西洋において既に14世紀終わりに萌芽が見られるものの、その中の約4分の1を占めるに過ぎない。また、プロテスタントの思想的背景を正確に理解するために、宗教改革以前に影響をもったスコラ学や人文主義思想を研究する必要も出てくる。何と言っても、プロテスタントの思想家達が扱っていない、あるいは彼らの思想の母胎となるテーマをそれ以前のカトリックの思想家達は扱っている場合が多く見られる。それらの中には時代や教派を超えた普遍的なテーマも少なくない。その事実を考えると、プロテスタントの研究者がカトリック思想にこだわり、研究対象にしても何の不思議もないのではないだろうか。

さて、私の場合、16世紀スペインの思想史を研究している。もう少し具体的に説明すると同国によるインディアス(主に中南米における当時のスペインの植民地)の領有問題の是非、同国によるキリスト教布教の理念と功罪、先住民の人権というテーマをカトリック聖職者達が依拠したスコラ学の解釈によって扱っている。現在はB. ラス・カサスというドミニコ会修道士の神学思想に焦点を置いている。なお、昨年9月の所属学会で発表した論文が今年7月の学会誌に掲載されるので、ご高覧の上、批評を頂きたい。研究では、①先行研究の批評、②歴史考証、③著作の翻訳と解釈、④スコラ学や同時代の人文主義思想との比較検討、という方法を用い、新説を発見するよう努めている。また、将来的には積極的にフィールド調査にも出向きたい。また最近では、上記のラス・カサスの思想分野は神学に限定されることなく、歴史学、法学など多岐にわたるため、それら諸分野の研究者達とも今後比較研究の機会を持つことの必要性を感じている。実は今年の1月に沖縄国際大学法学部において法制史関連の講演を行う機会を頂いた。その講義の担当教授との対話、受

講生からの反応を通して、現在の研究をより学際的に行う必要を示されたことは大きな収穫であった。現在、福岡で関連分野の研究サークルを立ち上げようと研究仲間と呼びかけている最中であるが、将来的に沖縄でも何らかの勉強会ができれば幸いである。

キリスト教思想の研究は、現代世界にも重要な問いを提起してゆく。例えば、ラス・カサスの場合、「先住民＝アリストテレスの説く自然奴隷、ゆえに先制戦争は合法化される」という征服者側の通念を神学－法学、また人文主義の見地から徹底的に再検証し、その非合法性を証明した。また彼は当時西洋人が殆ど看過していた先住民の人権や定住権を、「神法」や「自然法」の見地から擁護したのである。彼の思想研究から、キリスト教は孤立することなく、異文化・他宗教との関係の中で謙虚に自己検証し、自ら思想的立場を鮮明にしてゆく課題を受ける。その課題と真剣に対峙する時、キリスト教界はイラク戦争のように偽りの大義名分の下に正当化される大国の先制戦争の正体を暴露し、その非合法性を論理的に主張できるものと確信する。戦争にせよ人権にせよ、過去の思想家達は現代世界の抱える諸問題に対しても助言や警告のメッセージを発信しているように思える。研究歴の浅い者ではあるが、このメッセージを正確に受信し、自分の研究や本学においては「キリスト教学 II」等の講義を通して学生に中継できることを切願している。



# 学生からのメッセージ

- 英語コミュニケーション学科2年次 山入端 志野
- 英語コミュニケーション学科4年次 新垣 辰人
- 英語科2年次 長山 正樹
- 保育科2年次 宮城 海希

---

## 実りある2年間

英語コミュニケーション学科2年次 山入端 志野 (図書館奨学生)

私は図書館奨学生として2年間図書館で働かせてもらった。図書館奨学生として選ばれたことで私にとっても素晴らしい影響を受けている。もし選ばれていなければ私の大学生活は大きく変わっていただろう。それほど図書館での時間は、私の学生生活の中で貴重なものであった。

例えば、図書館で働いていると興味あるないに限らず、たくさんの本と出会えるので新たな興味を増やすことができた。本を書架へ返却しながら「図書館にこんな本があったんだ」と感心して、思わず立ち読みしてしまうことがあった。そのちょっとした時間だけで、心に残る言葉に出会うこともあった。そして、本だけでなく人との出会いも多くあった。普段の学校生活の中ではなかなか話す機会のない他学科の先生方と話すことができた。またアルバイト生や職員の人と仲良くなったり、いろいろな人と話すことができた。これらの図書館での出会いは私を成長させてくれて、日々の学校生活を充実させることができた。こんな良い機会に恵まれたことをとても嬉しく思う。

最後に、図書館には多くの情報が溢れているので、それを上手く活用して在学生のみなさんにも図書館と共に毎日の学校生活を楽しんでほしいと思う。

---

## 私と図書館

英語コミュニケーション学科4年次 新垣 辰人

私は高校卒業まで、図書館という場所をまともに利用した事がなかった。小さいころから活字を見ると眠くなる性分で本を読む事に興味がなかったのである。図書館を利用する機会があるとすれば、テスト勉強もしくは待ち合わせの場所としてくらいだった。しかし、大学入学後、図書館という場所

が私を大きく変えた。そのキッカケとなったのは、半年に一度大学の図書館で行われる図書整理アルバイトである。

図書を一冊一冊手に取って整理していく最中、本のタイトルに惹かれページを開かずにはいられない図書達に出会った。それらの図書には、今まで知っているようで知らなかった事や新たな発見・全く未知の知識を知ることが出来た。この時、私は本を読む喜びと新たな発見・知識を得る感動を覚えたのである。

それ以来、大学の図書館アルバイトのみならず、町の図書館アルバイトを務めながら、一日中図書にふれる生活が私の中心となり、また、図書館に訪れる学生やお客さんと交流を深める事で多くの友人を得ることが出来た。この春、社会人となるが、新たな発見や人の出会いを求め図書館に通い続けるだろう。私にとって、図書館とは知識だけでなく、人に成長をもたらす場所である。

---

## 「Never wanna stop」

英語科2年次 長山 正樹

努力すれば必ず思いは成し遂げられると、みんなよく言うけど、気が付けばいつも途中で疲れて、あきらめて叶わないままにしてある事がよくある。でも、何故だか分からないけど勉強し続けることだけはあきらめちゃいけない気がする。努力すれば思うように英語が話せるようになるのか、考えれば不安で仕方ない。学力のなさは学習することでしか補えないけれども、情報を共有することはできる。

図書館アルバイトをしていると、利用者から質問を受けることもあり、知りたい情報を得ることで、1+1が2になるのではなく、それが3にも10にもなるのではないかと感じる。今、精一杯にやり抜く… こぼれた水が盆に返らないのなら、また汲んできた方がいい、それが生きている人間の特権であり、大事にしなければならぬと思う。

やれるだけやってみることに、失敗と成功の差はそこにある。チャンスはまだある。いろんなことへ繋げることができるよう、僕は時間ができるといつも図書館を訪れている。人の真似は嫌い、人の真似はしない、人の真似をする人は嫌い、でも人の真似をする自分はずっと嫌い！でも、図書館は大好き！

---

## 絵本と図書館

保育科2年次 宮城 海希



私は、小学生の頃から本はあまり読まず、図書館で勉強をする人でもなく、図書館とは無縁な状態であった。

大学は課題やレポートが多い。特に保育科学生は絵本に関する課題、手遊びや食生活、飼育や技能、について調べる事が多く、その度に図書館へと足を運び、夜遅くまで居残ることが多くなった。

私が借りた本はほとんどと言ってもいいほど保育関係の本。特に絵本カード・言葉カードの課題では、借り出してはいなくても、利用した絵本は100冊を超える。

また、キリ短ならではのキリスト教に関する絵本も充実していて、絵があるだけでとてもわかりやすく、たくさんの知識を得る事ができたので、子ども達にも見せたい思いが湧き出して来る。図書館の扉を開けた瞬間のあの独特の雰囲気。最初は静か過ぎて息詰まりそうでしたが、だんだんと自分の空間を作れる場所、居心地の良い場所となっていく。

4月からは保育園で働くことになっている。たくさん絵本の読み聞かせをし、私が学んだように、子ども達にも絵本を通して夢や希望、本の楽しさを教え、伝えていきたい。



# 図書委員から一言

- 人文学部英語コミュニケーション学科講師 浜川 仁
- 英語科教授 作田 真由子
- 総合教育系准教授 張本 文昭
- 保育科准教授 大山 伸子

## 知性のデフレを断つ



人文学部講師  
浜川 仁

いま、全国各地の中学や高校、そして大学で「知価の暴落」とでも呼べそうな現象が進行しつつある。これだけインターネットが普及し、情報へのアクセスがおどろくほど容易になったというのに、なぜか学ぶ意欲は失われつつあるように思える。

だが、ほんとうにこれで良いのか。そもそも、なぜわたしたちは大学にいるのか。それは、アカデミックな環境で刺激を受け、学ぶ意欲と好奇心を高め、知的感性をとぎすますためではなかったか。

確かに、この知価のデフレーションの真っ只中であって、自分だけ学ぶ意欲を維持することは不可能に近い。「暗い」だとか、「かわいくない」だとかいわれてしまう。女の子であれば、これは致命傷にちかいと感ずるかもしれない。だが、じつは本こそが、このような「知価の暴落」を食いとめる楯となるのだ。

だから本を読もう。自分のためだけではなく、遊び呆ける回りの人たちに暗黙のプレッシャーをかけるためである。本を読むことは、知価のデフレスパイラルを断ち切るための勇敢な投資なのである。

この学院には、素晴らしい知性の相乗効果を期待したい。

## 無料で読めるサイト



英語科教授  
作田 真由子

「そのうち雨はますます深くなった。家を包んで遠い音がきこえた。門野が出てきて、少し寒いようですな、ガラス戸をしめましょうかと聞いた。ガラス戸を引く間、二人は顔をそろえて庭の方を見ていた。青い木の葉がことごとくぬれて、静かな湿り気がガラス越しに代助の頭に吹き込んできた。」

さあ、誰の文章でしょう？ 夏目漱石『それから』の一節です。二人というのは主人公の代助と、友人の妻の三千代。そしてこの部屋の中には、彼女が持ってきた大きな三本の百合の花がテーブルの上で重苦しく甘く香っています。漱石は文豪などと言われ、取っつき難く感じるかもしれませんが、お勧めです。人間くさくて、感覚的なところが私は気に入っています。

本は私たちの心を日常から引き離し、癒してくれます。図書館に行くのは面倒だけど少し覗いてみるのなら、日本の古典文学を無料で読めるHPがあります。西洋(英語)作品のサイトもありますよ。アドレスを紹介しますので、気に入ったら是非読んでみて下さい。

<http://www.aozora.gr.jp/index.html>(日本文学)

<http://www.aozora.gr.jp/index.html>(洋書)



## 肥やす、耕す



総合教育系准教授

張本 文昭

子どもの頃、親父はあらゆるジャンルのたくさんの本を読んでいて、僕はドラえもんばかり読んでいた。

ある日、親父の書棚を物色していて「ロウソクの科学(角川文庫)」を見つけた。内容は覚えていないが、「本」というものがこんなに面白いのかと思い、本好きになった。

小中学生の時は冒険小説を読み、高校生では青春小説を読み、大学生になってからは紀行文やルポものをよく読んだ。それらはきっと今の自分の肥やしになっているだろうと思う。

働き出して、本を読む機会がめっきり減った。専門書は確かに読むのだが、あれは僕にとって「本」ではなく、文字情報に過ぎない。知識は増えるが、自分の肥やしにはならない。

ここ数年、絵本ばかり読まされている。娘とのやりとりを通し、古から語り継がれ読み継がれている昔話や民話には、国境や人種、言語を超えて、時代を超えて、何か子どもたちの内面に働きかけるエッセンスがびっしりと詰まっているように感じる。だからきっと、娘の肥やしにはなっている。

Webに社会に情報があふれ、携帯で小説が読める現代にあって、インクで印刷さ

れた「本」を、浜辺のモンパの樹の下で波音を聞きながら読む時間を過ごしたい。



## 本は「知の器」



保育科准教授  
大山 伸子

白状すると、最近、老眼と共に活字離れが進み、少々焦っている。言い訳めくが、私は、読書好きの少女だった。

――幼い頃、我家には「図書館」があった。というのも、本好きの兄が、我家の蔵書を近所の子ども達に貸出していたのである。貸出カードを作り、本のあらましを熱心に解説する念の入れよう。子どもたちが出入りし、それなりに「図書館」らしかったが、もともと、豊富な蔵書数でないから、利用率は、たちまちアタマウチ、ほどなく「閉館」に！――

その思い出の「図書館」で、『アンネの日記』に出会った。ユダヤ人の少女が、ナチスの迫害から身を隠したが捕えられ、収容所に送られるまでを克明に綴った実話であるだけに、身も心も引きちぎられる思いで夢中になって読んでいた。

後年、音楽の道に進み、アウシュビッツ収容所の毒ガス室で、モーツァルトの交響曲がBGMに使われたことを知った。音楽は、何と残酷なものか。清らかで美しい旋律が、あの残忍なホロコーストの「道具」に使われていたとは――。

本は、多面性を持つ「知の器」である。その「器」の生かし方は、私たち人間次第。皆さんが、本から溢れ出る無限の知識を血肉にし、世の中に役立てて下さる事を願ってやみません。



## ～学内～ 著作活動

### ■ 青野 和彦

- ラス・カサス『布教論』の研究(2)ーインディアス先住民の「信仰の認識」を中心にー  
『神学研究』(54)2007(関西学院大学神学研究会)
- ラス・カサス『布教論』の研究(3)ー5:6ー8の宣教方法における信仰理解ー  
『キリスト教史学』(62)2008(キリスト教史学会)

### ■ 張本 文昭

- 日本型野外教育を考える  
『野外教育研究』(11-1), 31-36, 2007

### ■ 伊佐 雅子

- 女性と異文化適応ー日本人母親の場合  
『多文化社会と異文化コミュニケーション』池田理知子 [ほか] 著 三修社, 2007.11

### ■ 神山 繁實

- 学院の歩みと取り組み  
『キリスト教学校教育』2007/4

### ■ 喜舎場 勤子

- 沖縄県における善隣幼稚園に関する研究ー設立時期を中心にー  
『保育学研究』(44-2)2006

### ■ 本浜 秀彦

- クリストファーたちの4月  
琉球新報 2007年4月11日 朝刊

- 私的地球の歩き方  
琉球新報 2007年4月24日 朝刊
- 「漫画の神様」と沖縄  
琉球新報 2007年5月8日 朝刊
- それからの、沖縄映画  
琉球新報 2007年5月22日 朝刊
- 紙とインクと活字と  
琉球新報 2007年5月19日 朝刊
- 『9.11』以後の世界  
琉球新報 2007年6月4日 朝刊
- 『命』を聴く静けさの代償－中村文則  
『すばる』2007/9
- 『最期の命』  
『すばる』2007/9
- オキナワン・コミックスー沖縄の感性 マンガにー  
朝日新聞 9月28日 夕刊
- 『羽賀研二』という皮膚ー『ワルの物語』についてー  
『すばる』2008/2
- 「シンポジウム『マンガは越境する』に寄せて」  
琉球新報 2008年3月4日 朝刊

## ■ 大城 宜武

- マンガ、アニメ、小説に登場する憧れの人物  
『児童心理』(873), 2008/2 臨時増刊号

## ■ 大山 伸子

- 宮良長包の音楽教育活動に関する研究(4)ー作品研究I<明治・大正篇>ー  
『沖縄県立芸術大学紀要』(16), 2008/3
- 教養科目における「音楽」の位置付けー「音楽の世界」の授業内容と授業評価アンケートー調査結果を踏まえてー  
琉球大学・大学教育センター(11), 2008/3
- はっぴーママ 親子でタッチ♪手遊び歌

vol.16 (OKINAWA), 2008/3

■ 内間 清晴

- "Pressure effect on thermopower of  $Y_{1-x}Gd_xCo_2$  alloy system", T. Nakama, Y. Takaesu, K. Uchima, K. Yagasaki, M. Hedo, Y. Uwatoko, A. T. Burkov.

**Journal of Magnetism and Magnetic Materials 310(2007)**



# 沖縄キリスト教学院大学論集第4号 沖縄キリスト教短期大学紀要第36号

「沖縄キリスト教学院大学論集第4号」及び「沖縄キリスト教短期大学紀要第36号」が2008年2月に発行されました。研究内容は次のとおり。

## ● 沖縄キリスト教学院大学論集

(拡大  201KB)



(拡大  207KB)



## ● 沖縄キリスト教短期大学紀要

(拡大  197KB)



(拡大  212KB)









図書館ニュース

## 2007年度 新規受け入れ雑誌含むバックナンバー

### 2007年度 新規受入雑誌含む・バックナンバー (9タイトル)

1. 月刊新聞ダイジェスト 月刊 (2007年4月(通巻527)～)
2. チャイルドヘルス=Child health 月刊(2006年3月(通巻102)～)
3. うかたま 季刊(2007年春号2号～)
4. 食育活動 季刊(2007年3月～)
5. 食農教育 月刊(2007年4月増刊号54号～)
6. 広告批評=koukoku hihyo monthly 月刊(Mar/Apr313号～)
7. 子どもの権利研究 隔月刊(5号～)
8. 異文化間教育 年1回～年2回(1987/No.1～2007/No.26)
9. STUDIES IN ROMANTICISM (1961～2004 v.1～v.43)製本雑誌を  
購入



大学院関連新規購入予定雑誌・データベース

(雑誌)

1. 和雑誌(ジャーナル)
  - (1)『異文化コミュニケーション』(Journal of Intercultural Communication)  
(異文化コミュニケーション学会SIETAR JAPAN) --- (年1回)
  - (2)『多文化関係学』(多文化関係学会) --- (年1回)
2. 洋雑誌
  - (1)International Journal of Intercultural Relations --- (年1回)
  - (2)The Howard Journal of Communications --- (年1回)
  - (3)Language Assessment Quarterly --- (年4回)

(データベース)

1. ERIC
2. Linguistic and Language Behavior Abstracts(LLBA)
3. Sociological Abstracts

**\*\* 購読中止逐次刊行物 \*\***

1. 誰にもわかる社会生活六法—法律相談Q&A— --- 新日本法規出版  
(中止)
2. 会社議事録・会議録モデル全集 --- 新日本法規出版  
(中止)
3. 学校文書作成ハンドブック --- 第一法規(中  
止)



図書館ニュース

## 2008年度新規購入予定雑誌・データベース

### 2008年度 新規購入予定逐次刊行物・データベース

#### (雑誌)

1. 学校教育相談の理論・実践事例集  
いじめの解明 追録 年2回
2. Rika Tan 理科の探検 月刊 (創刊号2007年4月～)
3. 内外教育 週2回 (2008年4月～)
4. STUDIES IN ROMANTICISM

#### (新聞)

1. 読売新聞 朝刊・夕刊
2. THE DAILY YOMIURI 朝刊のみ

#### (データベース)

1. 琉球新報データベース (2008年4月～)
2. 沖縄タイムス記事データベース (2008年4月～)



# お知らせ

## 図書館の利用について

大学院開学に伴い、2008年度4月より  
図書館利用について下記のとおり変更予定。

### 1. 開館時間

曜日	月～金	土
時間	9:00～22:00	9:00～17:00

### 2. 貸出期間及び冊数

種類	期間	冊数	AV資料
短大・四大	14日間	10冊	2点
大学院	30日間	20冊	2点
ILL（相互貸借）	14日間	10冊	2点
教職員	90日間	30冊	2点
学外者	14日間	3冊	2点

※大学院関係図書は2階学習室コーナーへ設置してあります。